



内子町は「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」を目指す将来像に掲げ、まちづくりに取り組んでいます。美しい景観は、人と豊かな自然が調和することによって初めてつくられます。将来にわたって住み続けられるエコロジータウンの実現のため、環境保全是あらゆる施策の基本であり、私たちの暮らしにも深く関わっています。

環境保全の推進に向けて、町では令和7年度から10年間の「第3次内子町環境基本計画」を策定しました。その具体的な取り組みについて考えるため、地域の主役である町民が集まり、計4回の市民会議を開催。集まったさまざまな意見をまとめた「提言書」に基づいて、行動計画「内子町環境基本計画アクションプラン」(以下、アクションプラン)が完成しました。今回はアクションプランの内容を、策定に関わった皆さんの声とともに紹介します。まちの未来をつくるためにできることは何か、一緒に考えていきましょう。

特集 芽が育つように

内子町環境基本計画アクションプラン
—かわらないように かえてゆく—



得られた学びとつながりが まちの大きな力になる

内子町環境基本計画アクションプラン
策定市民会議 アドバイザー
愛媛大学大学院農学研究所 教授

高橋 真さん

市民会議にアドバイザーとして関わらせていただきました。皆さんが立場を超えて率直に意見を交わし、100項目以上の提言として結実したことは、内子町にとって大きな財産であり、持続可能な未来のまちをつくる礎になると感じています。

「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」「かわらないように かえてゆく」という理念を実現するには、守るべきものを大切にしながら、時代に応じてしなやかに変化していく知恵と工夫が必要です。会議では従来のように行政主導で施策を示すのではなく、町民一人一人がまちの未来を「我がこと」として考えることで、多様な主体が協力してより良いまちへ発展させるための新たな目標、具体的な取り組みが見えてきました。

計画を実際に動かす段階へと進む中で、さまざまな課題も表れると思います。会議で得た知識や経験、そして人と人とのつながりは、今後の課題解決の大きな力になるはずで、ここで生まれた対話と提言が、日々の暮らしの中の行動につながり、次の世代が「このまちに生まれ、住んでよかった」と実感できる未来へと実を結ぶよう、私も引き続き伴走していきます。

内子町環境基本計画 アクションプラン 取り組みの4つの“柱”

自分たちでつくる 環境の道しるべ

Project. 4
環境教育

エコロジータウンを
次世代へ引き継ごう

環境保全の取り組みは、幅広い主体が意識を高め、協力することが大切です。学校・職場・地域などさまざまな場面で、子どもから大人まで切れ目のない環境学習・活動に取り組みます。

取り組みの案／実施主体

【町民】
▷地域の魅力や資源を知る
▷多世代交流の場をつくり、参加する など

【企業】
▷従業員の行動変容を促す など

【行政】
▷学校と連携した環境学習の実施と情報発信
▷楽しく自然環境に触れ合えるプログラムを提供
▷「提供する人」と「活用したい人」を結ぶ仕組みづくり など

Project. 3
暮らし

ずっと住み続けたい
まちを創造しよう

持続可能な暮らしやすい環境をつくるために、ごみの減量は重要な課題の一つです。リサイクルや資源の地域内循環を進め、「ずっと住み続けたい」と思えるまちにしていきます。

取り組みの案／実施主体

【町民】
▷ごみを出さない意識で行動
▷マイバッグやマイ箸を持つ
▷生ごみをたい肥化する など

【企業】
▷リサイクル素材を使う
▷食品ロスの削減
▷販売製品のごみを回収 など

【行政】
▷余り物を入れる「おすそわけボックス」の設置
▷行動変容アプリなどを活用した、実践を促す仕組みづくり
▷ごみの分別の推進 など

Project. 2
自然

はぐくもう
自然とともに生きるまち

内子町には小田川をはじめとする豊かな自然があります。その環境や生物多様性について学び、守りながら、自然資源や景観を生かしたまちづくりを進めていきます。

取り組みの案／実施主体

【町民】
▷ハイキングや自然体験に参加
▷町内産の生ごみたい肥・竹炭の活用 など

【企業】
▷地産地消の農林産物・工芸品・ジビエなどの販売・活用
▷エコツーリズムの充実 など

【行政】
▷耕作放棄地・放置人工林の民間活用の支援
▷生態系保護活動の実施と情報発信 など

Project. 1
脱炭素化

「ゼロカーボンシティうちこ」
を実現しよう

内子町は二酸化炭素の排出量実質ゼロの「ゼロカーボンシティ」を目指しています。その実現に向けて、生活や職場の中での省エネ化や、再エネの普及などに取り組みます。

取り組みの案／実施主体

【町民】【企業】
▷自宅の断熱改修、断熱窓の導入
▷省エネ家電・設備への買い替え
▷自転車や公共交通機関の利用
▷節電・節水
▷太陽光パネル・蓄電池の設置
▷地産地消の推進 など

【行政】
▷エコドライブの普及
▷公共施設の断熱性向上
▷省エネ家電・設備、EV(電気自動車)への買い替え支援
▷企業の脱炭素経営の支援
▷公共施設の再エネ導入 など



ID 145875

※アクションプランの完成版は内子町のホームページで見られます。

「かわらないように かえてゆく」という理念を実現するには、守るべきものを大切にしながら、時代に応じてしなやかに変化していく知恵と工夫が必要です。会議では従来のように行政主導で施策を示すのではなく、町民一人一人がまちの未来を「我がこと」として考えることで、多様な主体が協力してより良いまちへ発展させるための新たな目標、具体的な取り組みが見えてきました。

環境基本計画では、基本理念として「かわらないように かえてゆく」を掲げています。豊かな自然や風土、人の営みに育まれた美しい景観や歴史・文化は、内子町のかけがえのない宝。守るべきものを「かわらないように」守りながら、私たち一人一人の意識や行動を「かえてゆく」ことで、目指す将来像を実現していくという思いが込められています。

アクションプランではこの理念に基づき、私たちが実施すべき取り組みを、「脱炭素化」「自然「暮らし」「環境教育」の4つの柱で考えました。行動案を協議するために開催した市民会議には、無作為に選ばれた町民の他、高校生や企業関係者などが幅広く参加。「自分たちだったら何ができるか」をそれぞれの立場で想像し、意見を交わしてきました。会議を経て、最終的に100を超える行動案が「提言書」にまとめ

アクションプランの策定に向けて、7年9月から12月にかけて「内子町環境基本計画アクションプラン策定市民会議」(以下、市民会議)が開かれました。プランには市民会議で生まれたアイデアが、「町民」「企業」「行政」の実施主体ごとに盛り込まれています。計画の概要と、取り組み案の一部を紹介します。



岡田 真吉さん

新しい視点をもたらした
講義では、二酸化炭素の排出量を吸収量で補う「カーボンオフセット」や、エネルギーの地産地消など、新しい発想を得られました。その後のディスカッションは「こうだったらいいな」というビジョンをまず描くことで、皆さんとても前向きな話に。もし、電気などのエネルギー自給率100%が実現すればすてきですね。「まちの人が困らないように節約しよう」という意識も生まれるはずです。
普段の生活でも、環境目線で見るという視点が生まれまし。例えばものを買う時に地元産を選べば、遠くから輸送するエネルギーを使わずに済みます。子どもたちが将来困らないよう、始めるのは今——そう考える機会を持ててよかったです。

小さなことからでもいい
内子高校の総合的な学習の時間で、環境美化の活動をしています。内容はまちのごみ拾いや清掃、校内の花植えなどです。ただ正直、環境問題は大き過ぎて解決のために何をすればいいかわからず、何となく「大きなこと」をするものだと考えていました。
市民会議では、環境保全は無理をし過ぎず、一人一人ができることをすればいいと知りました。たとえば近くの移動は車でなく、徒歩や自転車にするなど。小さくても取り組みを続ける人を増やすことが、解決に向かう第一歩です。環境についてまち全体だけでなく、たとえば住んでいる地域の行事でも取り上げたら、みんなで考える機会も増えると思います。ぜひ多くの人に関わってほしいです。



宮内 蒼汰さん



中田 和世さん

時代に合わせて変わろう
事業者の一人として参加しました。第3回で松山市のごみ削減の取り組みを知り、意識の高さを感じました。やはり大切なのは日々の心がけ。仕事上、紙を多く使いますが、電子データでやり取りをし、必要なものだけ印刷するなど、少しでも無駄をなくすようにしています。
私がかつどの頃と比べて便利な世の中になりましたが、使い捨て製品が増え、食品ロスも多いように思います。食べきれなかったら、おすそ分けするシステムがあると便利かもしれません。ごみの分別がわからない人は、内子町の公式LINEやアプリで調べる方法もあります。ごみを減らすため、時代に合わせて暮らし方もうまく見直していきたいですね。

「内子が好き」が原動力に
会議はとても柔らかい雰囲気です。皆さんと楽しく交流できました。熱い思いを持つ町民や企業の皆さんを知ることができ、一緒に考える仲間ができたように、「内子の未来は明るい」と感じています。
ある高校生は「自分のまちが好きだと気付けた」「まちを守るために、もっと学びたい」と言っていました。今回の学びは、参加者が自分たちの地域の良さに気付いたり、地元愛を再確認したりする機会になりました。プランを行動に移していくために、「まちを好きになる」ことが原動力になると思います。好きなまちのために何かしたいという豊かな思いを持ち続けることが、回り回って環境を守ることにつながるのではないのでしょうか。



広瀬 穂乃花さん

地元愛に気付き、芽生えてきた意識

市民会議には年代も住む地域も、立場もさまざまな人が参加しました。皆さんへのインタビューからは、市民会議が新しい目線でまちを見つめ直す機会になったことが伝わってきます。

市民会議ではアクションプランの4つの柱を各回のテーマに設定し、講師による情報提供とグループでの意見交換を行いました。参加者の多くは環境の専門知識がありません。だからこそ「自由に話せた」と、時間が足りなくなるほど活発な議論が交わされました。
暮らし方をどう「かえてゆく」か。大切にしたのは、自分事として考えることです。「自分がやるなら楽しく」という視点は、多くの前向きな意見につながりました。互いの多様な考え方や、まちの将来に向き合う思いに触れ、参加者の環境に対する意識には、ささやかですが着実な変化が生まれています。



第4回に参加した皆さん

市民会議の様子

第1回 《場所：内子自治センター》

- 開催日 9月27日
●テーマ 脱炭素化
●参加者 17人
●講師
▷折野未莉さん (株)ウェザーニューズ
▷内藤昌典さん (有)内藤鋼業



グループごとに意見交換

第2回 《場所：南予サイン》

- 開催日 10月25日
●テーマ 自然
●参加者 18人
●講師 河野裕之さん (NTTビジネスソリューションズ(株))



付箋に意見を書いて整理する

第3回 《場所：内子町森林組合小田支所》

- 開催日 11月15日
●テーマ 暮らし
●参加者 17人
●講師 中村優理子さん (松山市環境部環境モデル都市推進課)



講師の中村さん

第4回 《場所：五十崎風博物館》

- 開催日 12月13日
●テーマ 環境教育
●参加者 15人
●講師 河野裕之さん (NTTビジネスソリューションズ(株))
※全4回の取りまとめも実施



まとめた内容を発表



公受 怜未 奈さん



高本 雅治さん



西岡 瑞希さん



菊地 藍楓さん

私の「かえてゆく宣言」

「かわらないように かえてゆく」の答えは、アクションプランの中だけではありません。日々の生活を環境の目線で振り返ると、できることはたくさんあると気付きます。市民会議に参加した皆さんに、身近な「私のかえてゆく宣言」を聞きました。できることから行動する——小さなことでも、きっとまちを守る大きな一歩になるはずです。

- ・ いらないものは、おすそ分けする
- ・ トイレtpペーパーの使用量を少し減らす
- ・ 賞味期限の長い商品を開発する
- ・ ゴみを出さない生活を心がける など

《その他の参加者から寄せられた宣言》



西山 美樹さん



広瀬 楽人さん



上岩 和美さん

す。住民に意識が浸透しているからこそ、チャンスで行動を起こせる素地があるのだと感じます。

会議に参加して、いくつも印象的な意見に出会いました。たとえばトンボに詳しい高校生が「希少種が生息するため池を守りたい」と提言しました。ため池は、そこに住む人々の営みによって維持されています。環境保全と一口に言っても、その地域にとってどのような姿が望ましいかを考えることが重要です。高校生の意見はその地でやるべきことを捉え、とても地に足が着いていると感じました。地域に必要なことを考えられるのは実践者だけではありません。重要な目線を持つ人はたくさんいます。私自身、知らず知らずのうちに視野が狭まっていたことに気付かされました。

担い手不足や高齢化が進む中、さまざまな取り組みが転換点を迎えています。だからこそ日々の生活の中で環境の優先度を少し上げて、一緒に考える仲間を増やしていきたいです。地域の先輩が思いを蓄積し耕してきたこの土壌で、これからも環境保全の芽を皆さんと一緒に育てていきましょう。

内子町の環境保全を支援する団体で活動しています。学生の頃から環境に関心があり、さまざまな啓発活動にも関わりました。意識を変える啓発はもちろん大事ですが、実際に行動に移す難しさを何度も感じてきました。内子町は30年以上にわたり「エコロジータウンうちこ」を掲げ、環境政策をまちの重要施策の一つに位置付けています。長年の積み重ねによって、まち全体に高い環境意識が醸成され、環境マネジメントシステム「うちエコ」や、小中学生が対象の環境子ども会議など、実際にさまざまなアクションが行われていま

内子のすばらしい土壌で
環境保全の芽を育てよう

NPO法人環境NPOサン・ラブ
理事長 多比良 康彦さん

